

●2018年（平成30年）1～9月

1 政府による経済政策等に対する一連の抗議デモの発生

5月31日～6月6日、国内各地にて政府による経済政策（所得税法改正やガソリン等の値上げ）等に抗議する大規模なデモが行われました。特に夜間に行われたデモの中には、4サークル付近や空港道路の閉鎖、一部デモ参加者と治安機関との衝突による逮捕事案が発生したものがあります。

今後同様のデモが行われる可能性は完全に排除できないところ、そのような場合は、デモ等には近づかないようにするとともに、万一デモの場に遭遇した場合は、直ちに安全な場所に避難するなど、ご自身の身の安全を確保してください。

2 一般犯罪・凶悪犯罪等の動向

（1）銀行強盗

（ア）1月22日、24日に、アンマン市内において2件の銀行強盗事件が発生しました。

（イ）4月1日午前、アンマン市内ハルダ地区に所在する銀行（イスラミック・インターナショナル・アラブ銀行）において、銀行強盗事件が発生し、後刻、逮捕されたとの報道がありました。

（ウ）8月5日、アンマン市北部アブヌセイル地区のヨルダン銀行支店で発生した銀行強盗事件では、女装した上にプラスチック製拳銃を持った犯人により現金10,000JDを強奪されましたが、その後の警察の捜査により、5日夜犯人が自宅で逮捕されたことが報道されています。

（エ）今後、経済状況が更に厳しくなっていくと、銀行強盗をはじめとする強盗事件のみならず、ひったくりや空き巣事件等の発生が増加する可能性が考えられますので、十分に注意してください。自分が被害者とならない場合であっても、犯罪に巻き込まれる場合もあることにも留意してください。

（2）アンマン市における薬局強盗事件被疑者2名の逮捕

警察は2月8日、アンマン市シメサニ地区において発生した薬局強盗事件の被疑者2名を逮捕しました。被疑者らは、本件以外にも、スーパーマーケットに対する強盗事件及び外国人労働者に対する強盗事件に関与した疑いがありま

す。その他に強盗事件関係報道が7件ありました。

### (3) カラク県における暴動の発生

金銭トラブルを原因とする射殺事件被害者の死亡を受けて、2月7日夜、カラク県においてタイヤを燃やす等する小規模な暴動が発生しました。カラクにおいては日用品の価格上昇に反対するデモも行われています。

### (4) 両替店強盗事件犯人の逮捕

警察は、アンマン市ハイイ・ナツザール地区（2サークル南側）において4月23日に発生した、両替店強盗事件の犯人を逮捕しました。

### (5) アンマンにおける空き巣事件犯人の逮捕

警察は、5月上旬に、アンマン市内において15件の空き巣事件に関与した犯人を逮捕しました。同人は、電化製品、現金、貴金属等を盗んでいます。

## 3 テロ・爆弾事案関連

フヘイス市でのテロ事案とサルト市でのテログループへの強制捜査について～8月13日の政府関係者による記者会見での主要点は以下のとおりです。  
～

### (フヘイス市でのテロ事案について)

8月10日19時15分、フヘイス音楽祭会場から1km離れた地点で、停車警戒中のヨルダン治安機関係官の乗車する車両が爆発し、治安機関1名が殉死、6名が負傷した。同爆弾は、リモートコントロールを利用したもの。

### (サルト市でのテログループへの強制捜査について)

ヨルダン治安機関は、事案発生直後から迅速に対応し、12時間以内に犯行グループの拠点を突き止めました。治安機関は、サルト市のナクブ・ダッブール地区にある拠点突入に際し、テロリスト側に警告を与えた。治安機関の突入後、建物内で爆発が発生し、そのために治安機関員4人が殉死し、3人のテロリストが死亡。10人が負傷した。

サルトのテロリストの拠点では、治安当局が大量の爆発物を押収した。同様のテロ攻撃を別の場所で行うに十分な量であった。

### (テロ実行犯・背景について)

テロ実行犯は全員がヨルダン人。国外から資金を得ていたことを示す証拠はなく、捜査により、治安機関を狙った複数のテロ計画が存在していたことが判

明した。実行犯は特定テロ組織に所属していないが、タクフィール過激思想に感化し、ISILを支持していた。

#### 4 誘拐・脅迫事件発生情報

なし。

#### 5 在留邦人の安全に関わる諸問題

##### (1) ジェラシュでの強盗傷害事件

6月5日、ジェラシュ遺跡内において、邦人男性が被害者となる強盗傷害事件が発生しました。

被疑者は二人組で、観光中の被害者の後方から声をかけ、急に腕を掴み、ナイフを使用して金品の要求をしました。被害者が抵抗してもあきらめず、最終的には金品を奪い取って逃走しています（被害者は軽傷）。

観光地内においては、今回のような強盗事件のみならず、すりや置き引き（テーブルや椅子に置いておいた荷物を盗まれる）事件の被害に遭う可能性もありますので十分に注意してください。また、物品店や飲食店を経営する地元住民からしつこく物品等の購入や飲食店への立ち寄りを求められ、それを断った結果、石を投げつけられる等の事案も発生しています。

##### (2) マダバで空砲による在留邦人住居への被弾

7月上旬、マダバのサークル近くに居住している在留邦人宅の窓に、夜間空砲による流れ弾と見られる被弾がありました。特定の対象を狙ったものではありませんが、イスラム教の祝日やタウジーヒなどのお祝い事の場合には、当地の習慣で空砲を撃つことが多くありますので、ご注意願ください。

##### (3) タクシーや配車サービス利用時のトラブル増加

これらトラブルは、夜間の利用時に多く発生する傾向にありますので十分に注意してください。

##### (4) 夜間外出時の安全確保

夜間は、強盗やひったくりのような重大な犯罪や性的犯罪の被害に遭う可能性が高くなります。夜間に外出する場合は、犯罪被害に遭う可能性が高いことを念頭に置き、常に周囲に気を配ること、目的地までの交通手段についても十分に検討すると共に、できるだけ午後11時頃までには帰宅することをお勧めします。